2022 年度　事業報告書（案）

日本河川・流域再生ネットワーク

自　2022 年 4 月 1 日
至　2023 年 3 月 31 日

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して活動しております。また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担っております。

2022 年度は、国内においては感染防止対策に努めながら、川づくりに関わる情報共有基盤の整備、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発に取組むとともに、国際的な技術交流はオンライン形式や対面で実施しました。また、会員に関しては、団体会員は 78 団体、個人会員は 837 人となりました。

1.　2022 年度実施事業

【1】　川づくりに関わる情報共有基盤整備

国内外の川づくりに関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、新刊案内、行政ニュース等について、ウェブサイト、facebook、YouTube、Instagram、ニュースメール、ニュースレター等を通じて広く社会に発信し、情報循環に努めました。また、JRRN 会員や海外連携機関（ARRN 会員組織、英国河川再生センター、欧州河川再生センター等）からの川づくりに関わる各種提供情報の共有を図りました。

2022 年度　JRRN 情報媒体の活動実績　※(　)は前年度

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ウェブサイト	随時	163 件 (228 件)
facebook	随時	80 件 (62 件)
ニュースメール	隔週配信	28 回 (48 回)
ニュースレター	隔月発行	6 回 (11 回)

また、「小さな自然再生」研究会の幹事として「水辺の小さな自然再生ウェブサイト」及び「水辺の小さな自然再生 facebook」の運営管理を担い、水辺でできる小さな自然再生に関わる情報共有を推進しました。加えて、ARRN ウェブサイトの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアのおける川づくりに関わる情報の普及に努めました。

【２】 川づくりの担い手の育成及び協働・支援

川づくりの普及・啓発と人材育成を目的とした行事を企画・運営し、また全国の川づくり団体が取り組む活動の協働・支援を担いました。

(1)「桜のある水辺風景 2022」写真公募

水辺がつくる美しい景観の未来への継承を目的として、「桜のある水辺写真」を Instagram で募集し、事務局推挙の作品を選考し、表彰を行いました。

(2)「水辺の小さな自然再生」現地研修会のシリーズ開催 «河川基金助成事業»

水辺でできる小さな自然再生の全国への普及促進を目的として、小さな自然再生を実践する現場での現地研修会を共催しました。

2022 年度 「水辺の小さな自然再生」普及に向けた研修行事

行事名	第 15 回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2022 年 9 月 10 日（土）～11 日（日）
開催場所	徳島県神山町・吉野川流域鮎喰川
主テーマ	小さな自然再生のワクワクで地域と川をつなげよう
主催	一般社団法人神山つなぐ公社、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	神山町、滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室、リバーフロント研究所
参加人数	52 名
行事名	**第 16 回「小さな自然再生」現地研修会**
開催日時	2022 年 12 月 11 日（日）
開催場所	京都府宮津市・大手川
主テーマ	フナの里帰り：自然と親しむ空間を復活させよう
主催	宮津天橋高等学校フィールド探究部、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	京都府丹後土木事務所、宮津市教育委員会、リバーフロント研究所
参加人数	50 名
行事名	**第 17 回「小さな自然再生」現地研修会**
開催日時	2023 年 1 月 14 日（土）
開催場所	茨城県土浦市・霞ヶ浦
主テーマ	浄化施設導水路と湖をつなぐ魚の通り道をつくろう
主催	特定非営利活動法人水辺基盤協会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所、リバーフロント研究所
参加人数	30 名

(3)「水辺の小さな自然再生」現地研修会の成果普及 «河川基金助成事業»

全 3 回の現地研修会の開催概要を開催報告書としてウェブサイトで公表しました。

公開年月	成果	備考
2023 年 3 月	第 15 回小さな自然再生現地研修会徳島県神山町・鮎喰川」 開催報告書（36 ページ）	小さな自然再生ホームページ JRRN ホームページ
2023 年 3 月	第 16 回小さな自然再生現地研修会京都府宮津市・大手川 開催報告書（48 ページ）	小さな自然再生ホームページ JRRN ホームページ
2023 年 3 月	第 17 回小さな自然再生現地研修会茨城県土浦市・霞ヶ浦 開催報告書（36 ページ）	小さな自然再生ホームページ JRRN ホームページ

(4)川づくり団体との協働・支援

JRRN 会員を含む川づくりに関わる諸団体が取り組む下記の公益活動に対し、企画や行事開催、広報等の支援、協働、協力を担いました。

国内の主な協働実績

年月	団体名等	協働内容
通年	JRRN 会員を含む川づくり団体	行事案内や刊行物の広報等（合計 17 件）
通年	水の巡回展ネットワーク(jawanet)	「雨展」企画・運営協力

【３】 川づくりの国際的な技術交流

韓国河川協会の視察団（自治体職員 18 名及び河川協会職員 5 名の計 23 名）が首都圏の治水対策や河川環境の取組みを学ぶことを目的に来日し、技術交流を行いました。コロナ禍の 3 年ほどは対面による国際交流行事が実施できませんでしたが、ようやく再開し、日本の川づくりの経験を伝えることができました。

また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口組織として、ARRN メンバーによる技術交流を目的に開催した『第 18 回 ARRN 水辺・流域再生国際フォーラム』にオンライン参加し、「NBS-based Ecological Restoration and Integrated Management of River Basins」を主テーマに、日本における川づくりの経験の普及に努めました。更に、第 16 回 ARRN 運営会議に参加し、JRRN の一年間の活動報告、及び ARRN の年間活用計画や組織体制等について審議しました。

国際的な技術交流実績

年月	団体名等	交流内容
2022 年 10 月 25 日～28 日	韓国河川協会	日光・大谷川砂防堰堤群、宇都宮・釜川、江戸川区・古川親水公園、東京都・環七地下調節池、東京都・隅田川、東京都・等々力渓谷の視察支援
2022 年 12 月 7 日	アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)	第 16 回 ARRN 運営会議 第 18 回水辺・流域再生国際フォーラム

2. 会員の入退会数及び現在の会員数

団体会員、個人会員の入退会数及び 2022 年度末現在の会員数は次表の通りです。

2022 年度 JRRN 会員の入会・退会状況

会員区分	2021 年度末	入会数	退会数	現在数
団体会員	63	15	0	78
個人会員	827	10	0	837

2022 年度　収入・支出決算書

（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日）

（収入）　＜単位：円＞

項目	予算額	決算額	増減	備考
①前年度繰越金	501,172	501,172	0	
②助成金	950,000	899,023	△ 50,977	河川基金助成事業（2023年6月に助成額確定予定）
③寄付金・謝金等	0	609,058	609,058	世銀プロジェクト、韓国河川協会謝金
④預金利息	6	6	0	
計	1,451,178	2,009,259	558,081	

（支出）　＜単位：円＞

項目	予算額	決算額	増減	備考
①旅費・交通費	620,000	823,237	203,237	研修会出張等
②通信・運搬費	6,000	5,324	△ 676	サーバー契約費等
③資料・印刷費	0	0	0	
④賃貸料	85,000	0	△ 85,000	会議施設利用費、リース費
⑤委託費	54,000	0	△ 54,000	
⑥諸謝金	60,000	0	△ 60,000	研修会講師
⑦消耗品費等	131,000	130,972	△ 28	研修会　器具備品、消耗品、広報費、運搬費等
⑧来年度繰越金	495,178	1,049,726	554,548	
計	1,451,178	2,009,259	558,081	

※上記は助成金及び寄付金等に関わる収支のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」の自主研究「河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究」より支出しました。